

令和2年度

大阪大学

文学研究科・文学部 インターンシップ報告書

編集・発行

大阪大学 文学研究科・文学部
教育支援室

560-8532 大阪府豊中市待兼山町 1-5

令和3年7月

目次

はじめに・・・・・・・・・・	教育支援室インターンシップ専門委員（文学研究科 講師）辛 賢	1
アート・メディア論インターンシップ概要・・・・・・・・・・	文学研究科 教授 圀府寺 司	2
国立国際美術館報告書・・・・・・・・・・	文学研究科 修士課程 久米 千裕	2
音楽学インターンシップ概要・・・・・・・・・・	文学研究科 教授 伊東 信宏	3

はじめに

本報告書は、令和2（2020）年度に大阪大学文学部および大学院文学研究科で行われたインターンシップ、ならびにその準備や事後指導を行っている授業について報告したものである。実習先・人数は以下のとおりである。

○国立国際美術館（アートメディア論）	大学院生2名
○東洋陶磁美術館（西洋美術史）	大学院生1名
○京都コンサートホール（音楽学）	大学院生1名

報告書を読むと、インターンシップに参加した学生にとって、実習先での体験がかけがえのないものであったことが読み取れる。新型コロナウイルスによる厳しい状況のなか、学生たちを迎えて指導して下さった受け入れ諸機関の方々に、この場を借りて、心よりお礼を申しあげる。

文学部・文学研究科としての報告書のとりまとめは平成16年度から始まるが、関連授業が毎年開講され、現在のような体制となったのは平成18年度である。平成18年度～令和2年度の15年間に、音楽・演劇・美術・映画の各方面のインターンシップが行われてきた。ただし映画関係は26年度末に担当教員が定年退職したため、現在は開講されていない。参考のために、平成18年度～令和2年度にインターンシップに参加した学生数を掲げておく。

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	計
音楽	5	3	4	2	4	6	6	3	3	3	3	6	0	6	1	55
演劇	4	4	4	3	2	6	2	4	3	0	3	6	0	3	0	44
美術	0	0	0	2	2	1	1	1	0	0	0	2	2	1	3	15
映画	1	0	1	0	0	0	1	4	0	-	-	-	-	-	-	7
小計	10	7	9	7	8	13	10	12	6	3	6	14	2	10	4	121

(単位修得を目的とせずに、インターンシップに参加した学生の数を含む)

教育支援室インターンシップ専門委員（文学研究科 講師） 辛 賢

アート・メディア論インターンシップ概要

文学研究科 教授 圀府寺 司

国立国際美術館のインターンに応募し、採用されて同館におけるインターン活動に従事した。

国立国際美術館報告書

大阪大学大学院 修士課程

アート・メディア論専攻 1年 久米 千裕

■研修先

国立国際美術館

■研修期間

令和2年4月1日～令和3年3月31日（令和3年度も継続）

■内容

- ・展覧会搬入見学/補助（「コレクション2 米・仏・独・英の現代美術を中心に」、「ミケル・バルセロ展」）
- ・展覧会関係イベント補助（「コレクション2 米・仏・独・英の現代美術を中心に」）
- ・資料整理（配架作業、データ入力、スクラップ、DM・フライヤー整理）

インターンシップに参加した中で、特に印象に残っているのは展覧会の搬入を見学させていただいたことだ。研究員やインストーラーの方たちの動きを間近で見ることができ、また、単に見学するだけでなく、開梱する際の記録写真の撮影や、作品リストのチェックなどをさせていただいた。

前年度のインターンシップは新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、出勤日数はかなり限られていたが、他のインターンシップ生や研究補助員のかた達とお話をすることができ、とても良い刺激を受けた。今年度の出勤も新型コロナウイルスの感染状況に左右されることになるだろう。一日一日の出勤を大切にしていきたい。

音楽学インターンシップ概要

文学研究科 教授 伊東 信宏

音楽に関するインターンシップは、例年いずみホール、ザ・フェニックスホール、京都コンサートホールの3館に受け入れを承諾していただき、3～6名程度の学生・院生について実施してきたが、2020年度は、コロナ禍のゆえもあって学生の希望も少なく、京都コンサートホールに院生一人（博士前期課程1年木村颯氏）を受け入れていただいたにとどまった。

日程は2020年11月5日（木）6日（金）、7日（土）の3日間で、ホール側には丁寧に実施していただき、あたたかい言葉もかけていただいた。

受講生が演習の時間にインターンシップ報告を例年行なっていたが、昨年度は色々異例の状況が重なり、これも実施できず今回の報告原稿も準備できなかった。今後、個別に整理してホールにもお伝えしたいと考えている。困難な状況の中、充実したプログラムを用意して受け入れていただいていた京都コンサートホールのスタッフの方々には深くお礼を申し上げます。